

## ■米国：オバマ大統領、連邦議会で初の施政方針演説

オバマ大統領は 2009 年 2 月 24 日、連邦議会上下両院合同会議において、同大統領にとって初めてとなる議会演説を行い、経済再生への取り組みを中心に、イラクからの米軍戦闘部隊の撤退などにも言及した。オバマ大統領は冒頭で、「我々は再建し、回復する。そして、米国はこれまで以上に強くよみがえる」と発言し、経済再生へ向けて「エネルギー」「医療」「教育」の 3 部門への長期投資を重点的に行う方針を示した。エネルギー部門については、過去の発言を踏襲した内容となり、1) 再生可能エネルギー導入量を 3 年間で 2 倍に拡大する、2) エネルギーを含め医学、科学、技術に過去最大の基礎研究資金を投じる、3) 数千マイルに及ぶ送電線建設を促進する、4) 住宅やビルの省エネを促進すると発言した。気候変動問題については、排出量取引制度（キャップ&トレード）を盛り込んだ法案の早期可決を議会に促した。また、風力、太陽光、先進型バイオ燃料、クリーン・コール、低燃費車の国内開発を推進するため、年間 150 億ドルを投資すると発言した。大統領選の対立候補であったマケイン上院議員（共和党、アリゾナ州）は、オバマ大統領の演説に対し、原子力政策が欠如していることを批判した。